

「令和2年度版 武蔵野市の環境保全(案)」の協議に関する視点

- 1 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業がいくつもあります。多くのイベント系事業が中止になりましたが、一方でオンラインを用いた方法など新しい形式により環境啓発を行う事業も見られました。またごみの量については在宅勤務の影響もあってか増加、逆に放置自転車の撤去事業については人々が出かけることが少なくなったせいか減少するなど、かなりはっきりとしたかたちで数値に表れているものもあります。このように、新型コロナウイルスは環境に関する事業に正の影響も負の影響ももたらしていると言えます。新型コロナウイルスの感染拡大による新しい生活スタイルは、コロナ禍が明けても定着する可能性があるため、市はこれについて注視し、必要に応じて施策に反映していきます。

- 2 令和2年度は、第四期環境基本計画(平成28～令和2年度)の最終年度にあたるため、5年間の総括的な評価が必要です。おしなべて言えば、新しい取り組みによって幅広い環境分野の事業が大きく進捗したと考えられます。

この期間における主な実績としては、以下の事業があります。

 - むさしのエコreゾートの開設
 - 地球温暖化対策実行計画の策定と「2050年ゼロカーボンシティ」の表明
 - エネルギー地産地消プロジェクトの完了
 - 武蔵野クリーンセンターの稼働
 - ごみ収集の在り方等検討委員会の開催
 - 生物多様性基本方針の策定
 - 生物生息状況調査の実施
 - 公共施設等総合管理計画の策定
 - 喫煙トレーラーハウスの整備
 - 学校等への雨水貯留浸透施設の設置